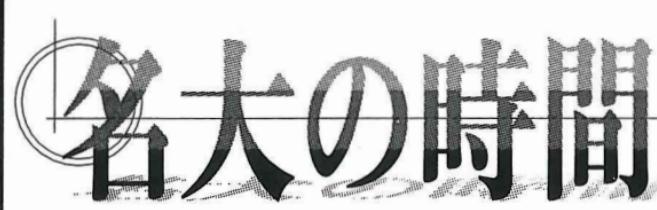


コロナ禍の一年を振り返つて



昨年の2020年

私たちの生活と価値観が大きく揺らいだこの1年は、多く人にとつて満足した年とは言い難いと思う。しかし私自身この1年を振り返ってみると、案外悪くはなかった、と思える

からである。それは
私も例外ではなく、
大学には通えず、外
出どころか生活のた
めのバイトすら自歎
せざるを得ない生活
にため息をつく毎日
だった。

この自粛期間中、読書や映画鑑賞など、新しい趣味が増えた。特に読書は元々好きだったため、この有り余る時間を贅沢に使って4冊の本を読み破した。さらに、生活リズムだけ

飲み会を開催していく。コロナのための外出自粛によってこれまでよりも生活が充実を実感し、さらには遠く離れた友人とリモートではあるが会う機会が増えたというのはなんとも

皮肉なことである。この1年を振り返つて、不満がなかつたと言えば嘘になる。しかしそれを普通の生活では経験できない体験をしたと捉えることもでき

2021
年は様々なことを寛容に受け止め、誰もがこんな生活でもまあいいか、と思える日が来ることを願つてやまない。

ろうか。本来ならば
オリンピックイヤー
として喜ばれ、親し
まれる年であつたは
ずだが、真っ先に思
い浮かぶのはコロ
ナ、マスク、外出自
肃…。

日本が前例のない感染症の流行によつて混乱を極め、度重なる自粛と感染の恐怖によつて不満を募らせ始めたのは昨年のこのぐらいの時期のである。

生活が当たり前になつていき、私たちの日常となつた。元々インドア派の私はむしろこの生活が性に合つているのかもしれない。慣れとは怖いものである。

は崩すまいと、毎日
大学に通っていた頃
よりも規則正しい生
活を心がけたことに
より早寝早起きが習
慣となりつつある。
また、定期的に地
元の友人とリモート

A black and white photograph capturing a bright sun in the upper right quadrant, its intense light creating a stark contrast against the surrounding dark, silhouetted tree branches. The foreground is filled with dense foliage and leaves, appearing as dark, textured patterns. A small, solid black rectangle is positioned in the top right corner of the image frame.

る。不満は募るかもしれないが、今私たちに求められるのは以前の生活を回顧することではなく、生活と価値観のアップデートだ。

